

「健康長寿を実現する住まいと コミュニティの創造」

(独)科学技術振興機構 平成24年度採択 戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)

健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造

研究代表者：伊香賀俊治 慶應義塾大学教授

治療重点の医療から“疾病予防・健康増進”を重視する保健医療体系への転換が求められているが、健康づくり(一次予防)のみの対策には限界が指摘されている。ここで、社会レベルでの疾病予防(ゼロ次予防)の対象として、生活基盤である住環境の重要性が再認識されている。

本プロジェクトでは、高齢化率が日本の40年後と同じ40%に達する中山間地域の高知県梶原(ゆすはら)町をフィールドとした実証実験を行う。具体的には、フィールド調査に基づいて、ゼロ次予防推進に貢献する住環境の論拠を獲得し、住民主体型の生涯学習およびICTを活用した住環境見守りシステムによって、健康長寿支援のしくみを構築する。



慶應義塾大学 伊香賀俊治研究室

1

社会実装対象：高知県梶原町

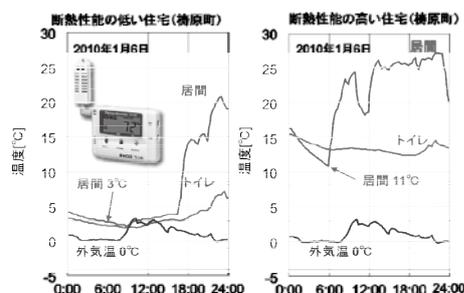
(1)梶原町の概要

- 面積236.51km²(森林率91%)
- 人口3,892人(高齢化率39.5%)
- 1,760世帯(高齢単身世帯率18.6%)



(2)梶原町で研究開発を実施する理由

- 住環境改善によるゼロ次予防推進の基盤づくりに着手
- 35年目を迎える「健康文化の里づくり推進員制度」
- 我が国の40年後の社会を想定した実践的検証となる点
- 2001年度以来の町と共同での継続的な先行調査の蓄積を有する点



(3)梶原町に関する特記事項

- 環境モデル都市として総理大臣が認証(2009.1)



慶應義塾大学 伊香賀俊治研究室

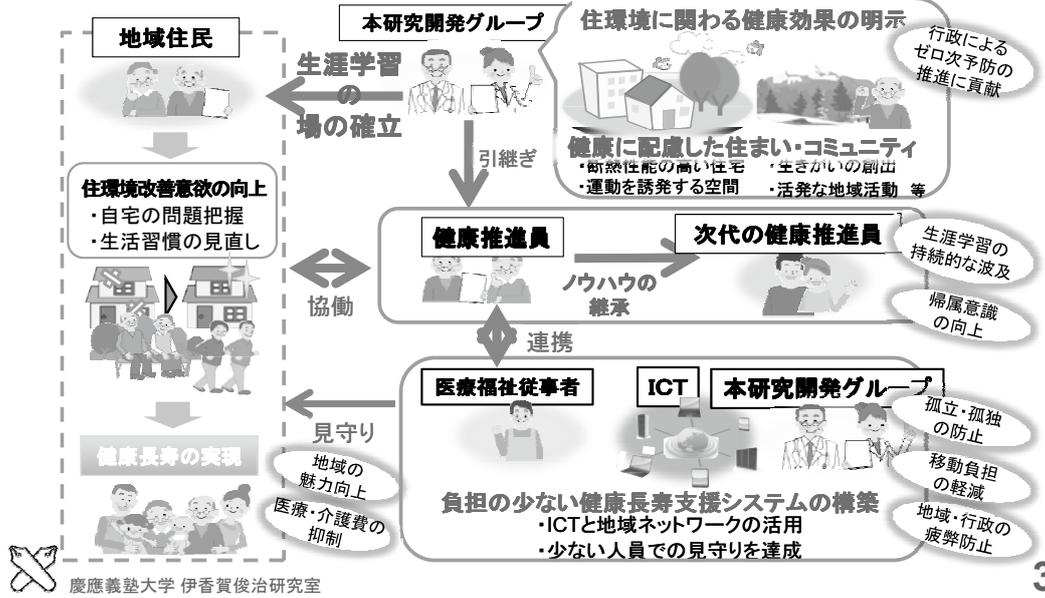
2



1959年東京生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学院修了。(株)日建設計、東京大学助教授を経て2006年より現職。専門分野は建築環境工学。博士(工学)。日本学術会議連携会員。内閣官房、国交省、文科省、経産省、環境省、厚労省などの審議委員等を務める。共著に、「CASBEE入門」、「建築と知的生産性」、「健康維持増進住宅のすすめ」、「熱中症」、「LCCM住宅の設計手法」、「建物のLCA指針」ほか。

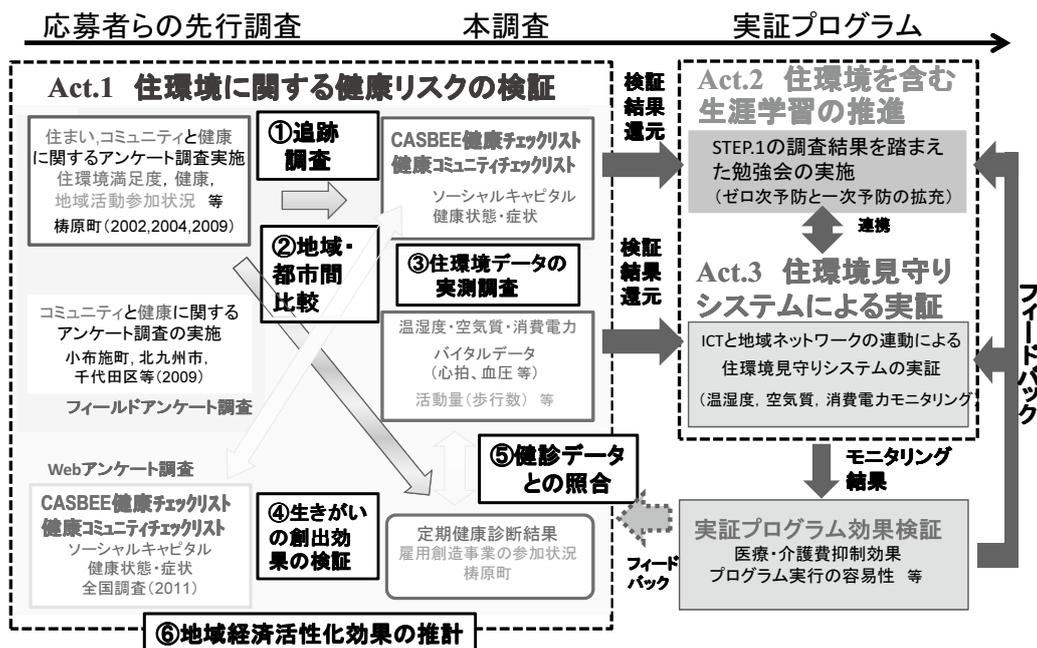
本プロジェクトが創出しようとする成果

- (1)ゼロ次予防推進に貢献する論拠の獲得
- (2)持続可能な生涯学習の場の確立
- (3)負担の少ない健康長寿支援システムの構築

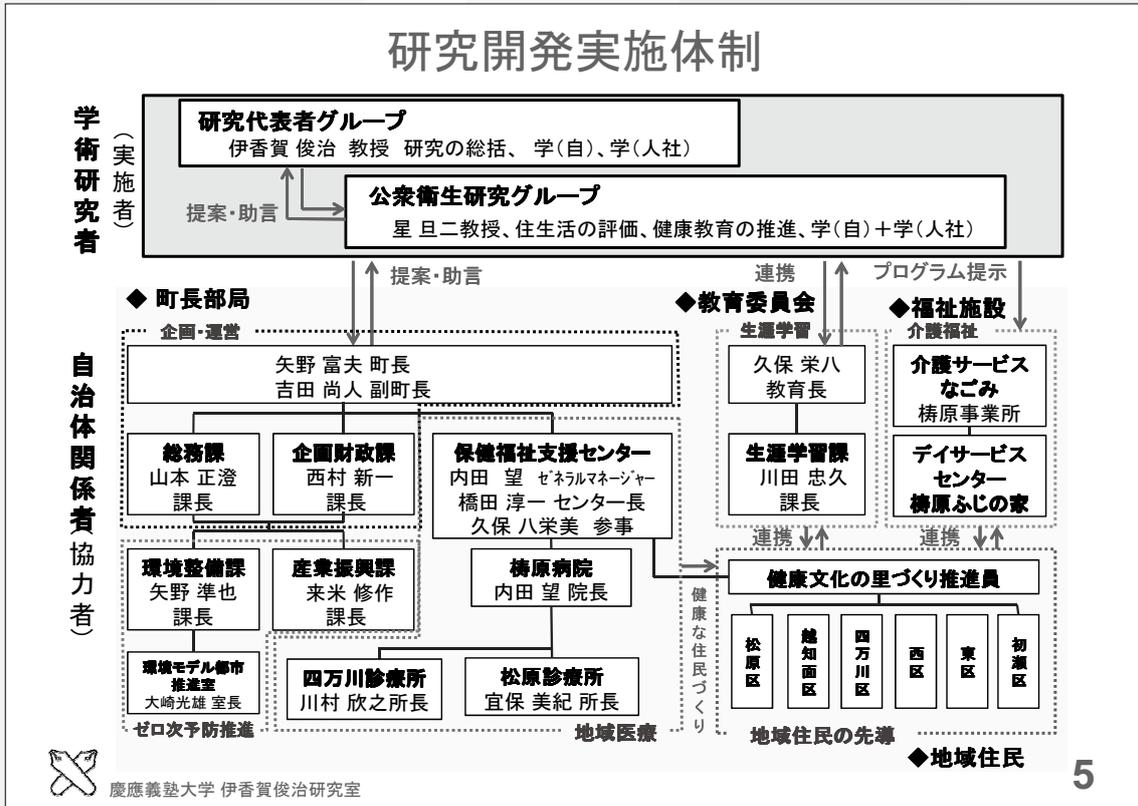


3

具体的な研究開発の内容



4



自宅とモデル住宅の違いを体感しましょう！

雲の上の町ゆすはらに、泊まって体験できる体験型モデル住宅誕生！



モデル住宅(下組)



モデル住宅(松原)

- 調査対象：健康推進員の方のお住まい 20世帯
- 実施時期：2013年2月中旬～2月下旬
- 調査項目：健康関連QOL, 病歴、温湿度、放射環境、家庭血圧、活動量、心電図

住民参加型のプロジェクトにするために



高知放送ニュース(2012年11月16日夜)

NHKニュースおはよう日本(2012年11月29日)



慶應義塾大学 伊香賀俊治研究室

7

研究開発の成果の活用・展開と将来展望

プロジェクト終了後の持続性

(1) 成果を持続するための担い手と経済的な持続性

梶原町保健福祉支援センターの指導のもと、住民(健康推進員など)と医療福祉サービス事業者が担い手となることを想定。住環境改善のアドバイスなどについては研究代表者らが引き続き協力体制を築き、ノウハウを行政・住民に引き継いでいく。住環境の見守りシステムについては、医療・介護負担の軽減効果に依存するところが多いが、健康教育については地域の継続的な実施が期待できる。

(2) 経済的効率性

経済的な持続可能性については、医療・介護費の抑制の経済効果に依存するところが多い。住環境における健康リスクは少なくなく、改善効果はあると予測される。この点については、疾病罹患の回避による地域の経済効果等の多面的な検証から、複合的な効果の解明を導く展開を計画。

創出された成果の一般性・他のコミュニティへの展開・実装可能性

研究開発成果については、まず同様の課題を抱える高知県内の中山間地域の町に展開する。これによって、高知県「日本一の健康長寿県構想」に貢献・発信・普及につながると期待。また、多摩ニュータウンにおける応募者らの先行調査の結果に基づき、都市部での高齢化問題について推測していくことも検討課題としている。



慶應義塾大学 伊香賀俊治研究室

8